

## 実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
阿久比町	東部地区(横松、萩、宮津)	令和3年3月23日	令和5年3月30日

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	95.5ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	60.4ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	35.1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	12.1ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	15.5ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	5.6ha
(備考) アンケート結果 規模の縮小・離農を考えている方の農地中間管理機構利用意向は8.7haである。	

## 2 対象地区の課題

<p>地区内で営農する中心的経営体の数も少なく、アンケートの結果である75才以上で後継者未定の耕作面積12.1haと、今後中心的経営体が引き受け意向のある耕作面積5.6haを比較し、今後6.5haの農地が引き受けされないおそれがあるため、新たな担い手を地域内外から求める必要がある。</p> <p>阿久比川の伏流水により湿田化する農地が多くみられ、大型農機具による効率化を図ることが難しい。また、大字宮津の丘陵地は農道及び用排水路が未整備で機械導入が図られにくい。</p>
--

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>東部地区の水田利用は、5経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。</p>
<p>東部地区の畑利用は2経営体が担うほか、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応していく。</p>

## 4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

<p><b>農地中間管理機構の活用方針</b> 農地所有者の希望を尊重しつつ原則として農地中間管理機構に貸し付け、意欲ある農業者等に農地集積をはかることで、将来の経営農地の集約化を目指す。機構を通じて中心経営体への貸付けを進めていくことで、作業の効率化と規模拡大を支援する。</p>
<p><b>土地改良事業への取組方針</b> 農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、東部地区内宮津において、土地改良事業を計画中である。</p>
<p><b>多面的機能支払制度の活用方針</b> 多面的機能支払制度を活用し、農地を始めとする水路、農道等、地域資源の維持・発揮のための地域活動などを推進し、集約化しやすい環境を整備する。</p>
<p><b>作物生産・畜産に関する取組方針</b> 特色である畜産についても、地域で更に発展するよう推進していく。土地利用型の水稲だけでなく、今後は果樹・畑作振興も考慮し、現在栽培しているナスを始め新規品目についても積極的に取り組みを行っていく。</p>
<p><b>就農支援の取組方針等</b> 農業後継者の育成確保のほかに、他地域からの新規就農者の確保と支援を推進し、担い手の拡大を図る。</p>